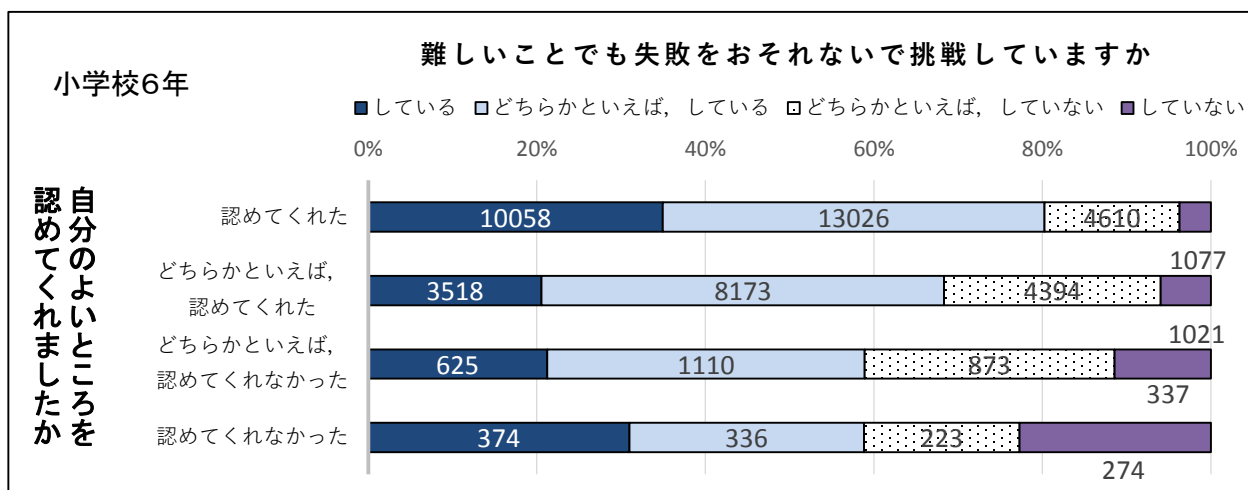
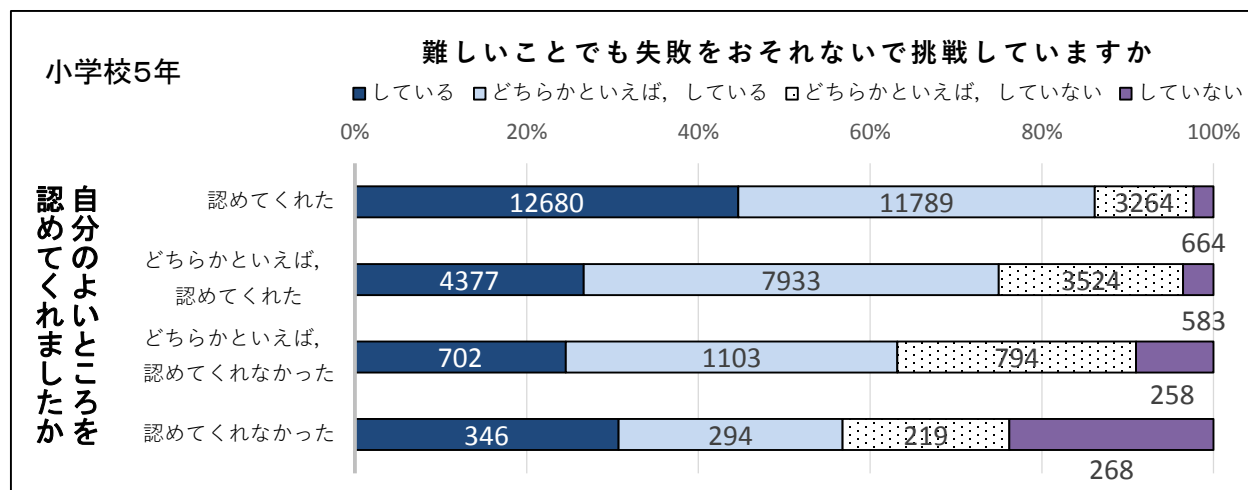
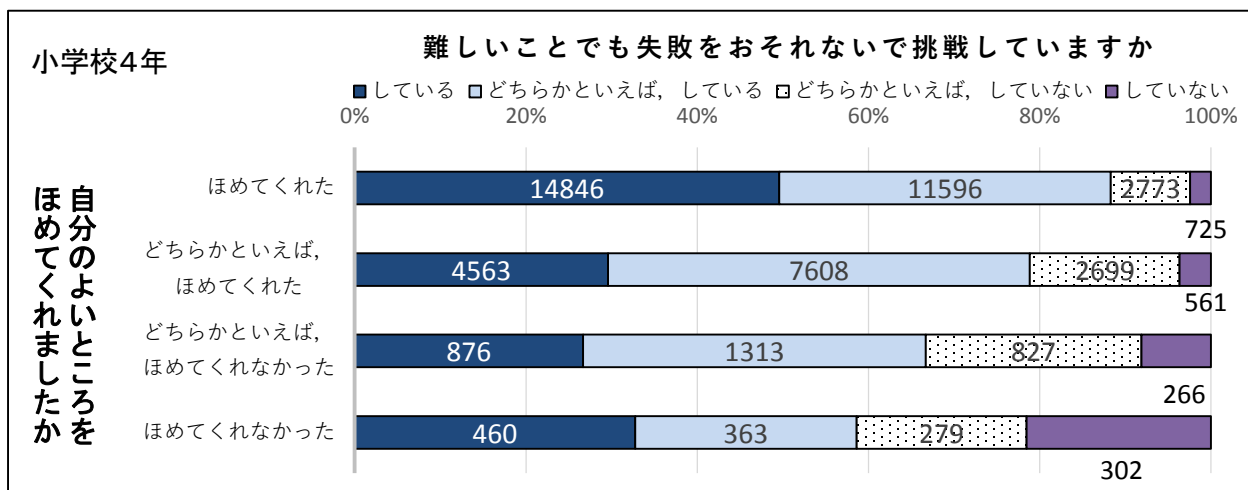


1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関

【概要】

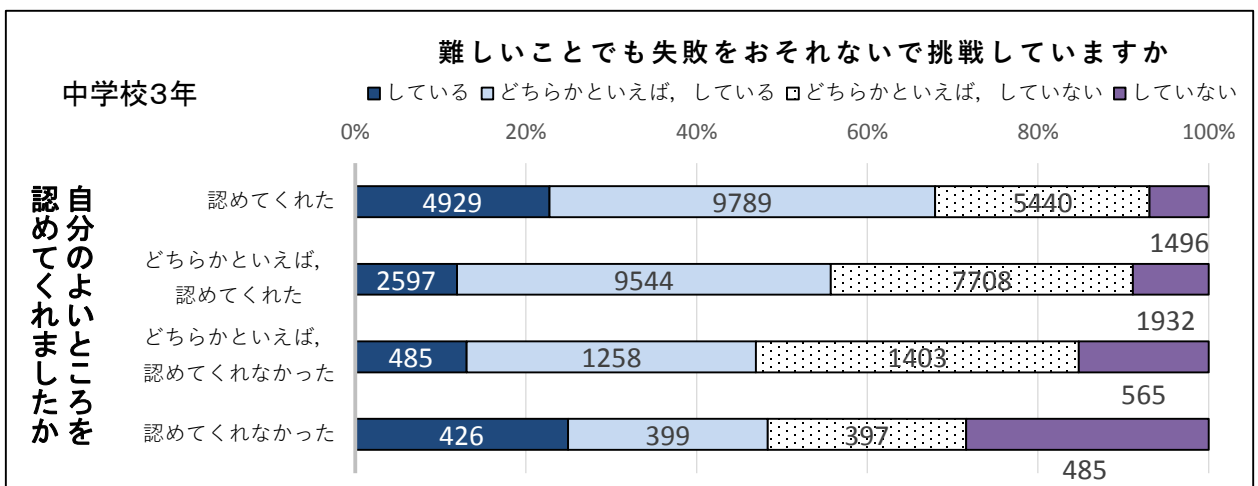
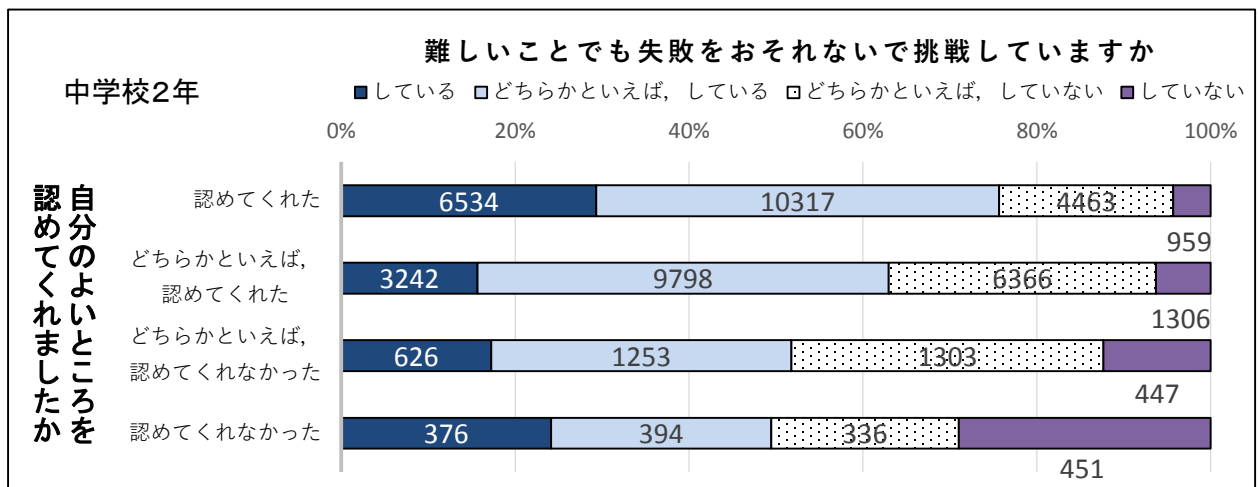
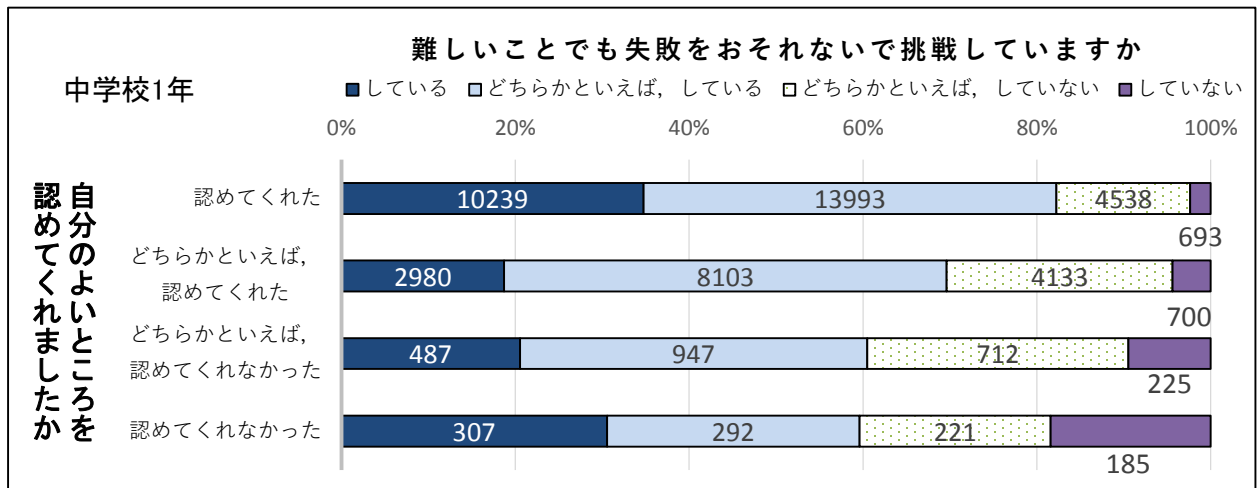
各学年を通じて、教員が「認めてくれた」「どちらかといえば、認めてくれた」という実感を持つ子供ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」と回答する傾向がある。

なお、小学生、中学生の多くは、教員から認められていることに対して肯定的に回答している。



【先生方へのメッセージ】

- 子供たちは自分の努力や良さを認められたり、ほめてもらえることによって、自己有用感や自信を高めていきます。
- 子供たちに機を逸することなく自信を持たせる言葉をかけをしましょう。
- ほめる、認める上で大切なのは、挑戦して失敗した時に、結果だけでなくその過程や子供の勇気、思いを認めることも大切です。

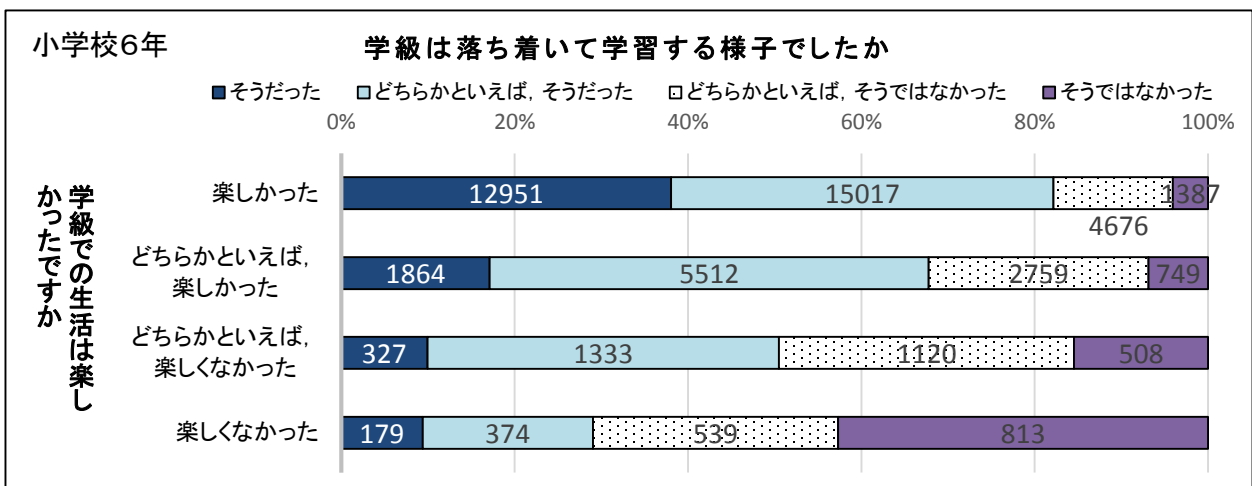
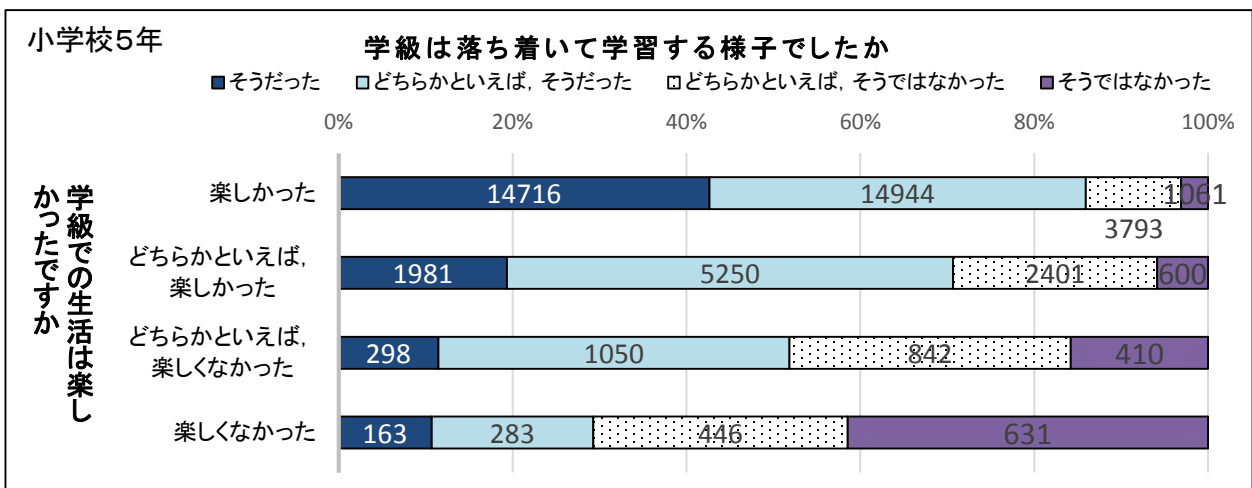
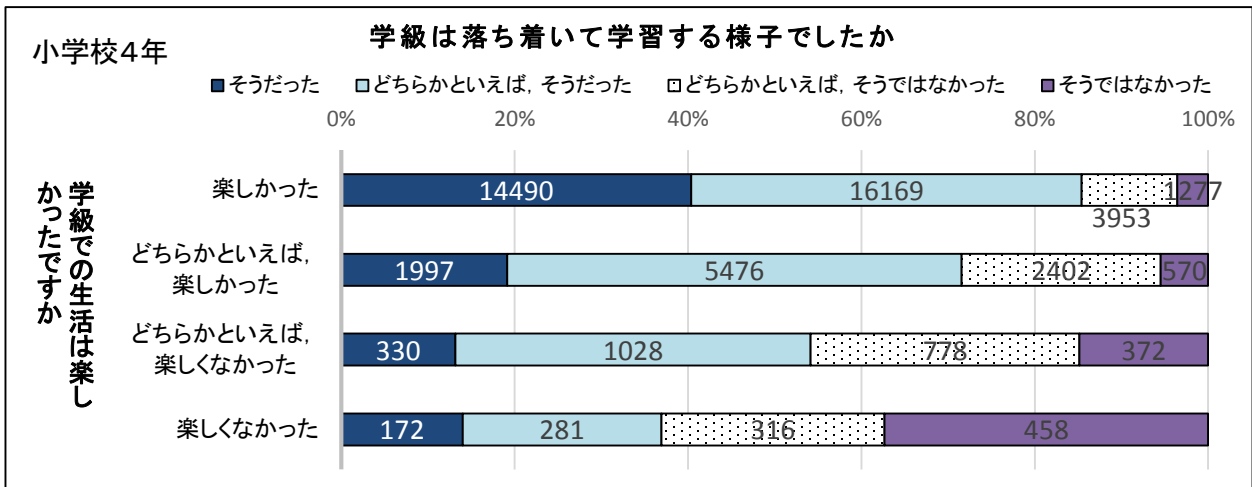


2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」に関する相関

【概要】

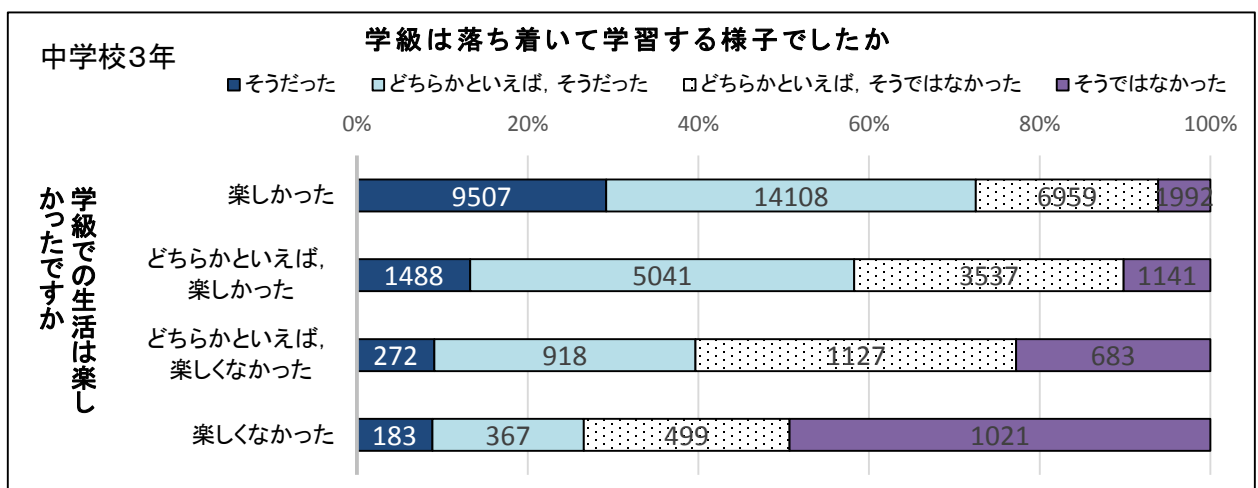
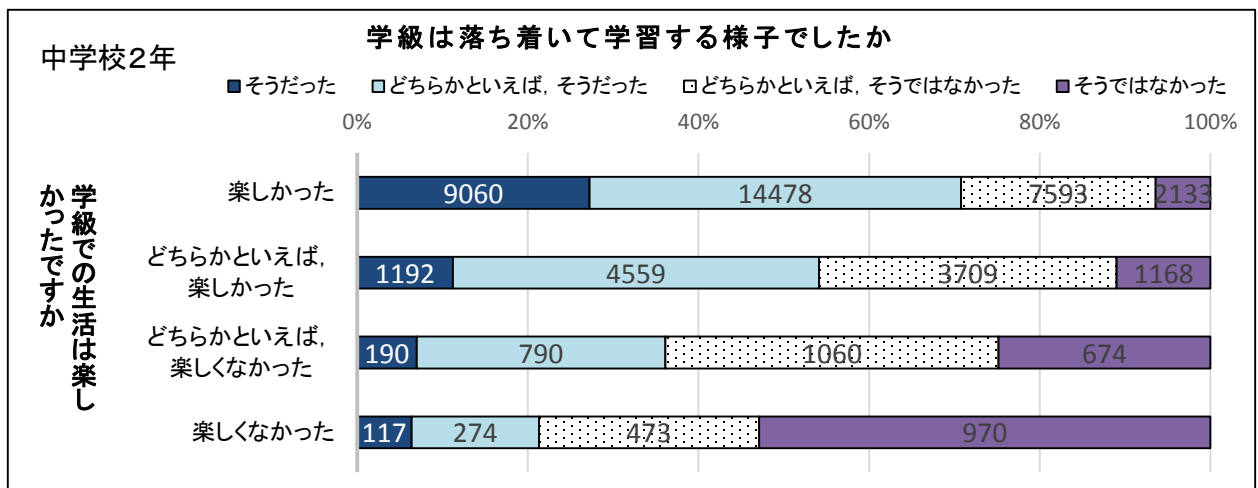
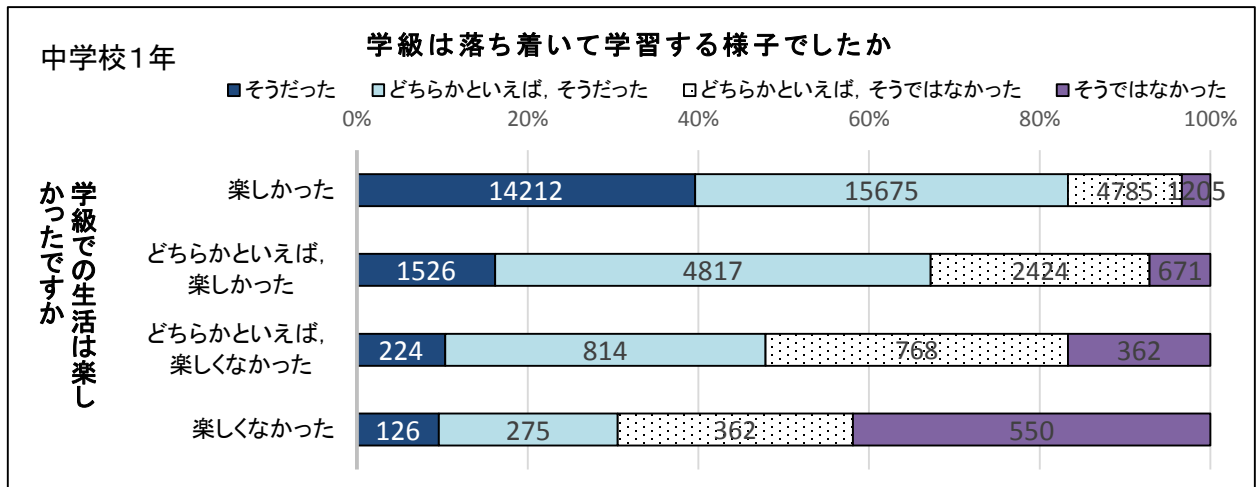
「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒は、学級の様子を落ち着いて学習していると考えている傾向がある。

なお、児童生徒の約90%以上が学級での生活を楽しんでいると考える傾向も各学年で共通している。



【先生方へのメッセージ】

- 自分の居場所があり、安心して生活できる学級は、子供たちの心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気醸成します。
- 学級づくりの充実は、学力向上にも効果があります。子供たちが楽しいと感じる学級づくりに日々取り組みましょう。

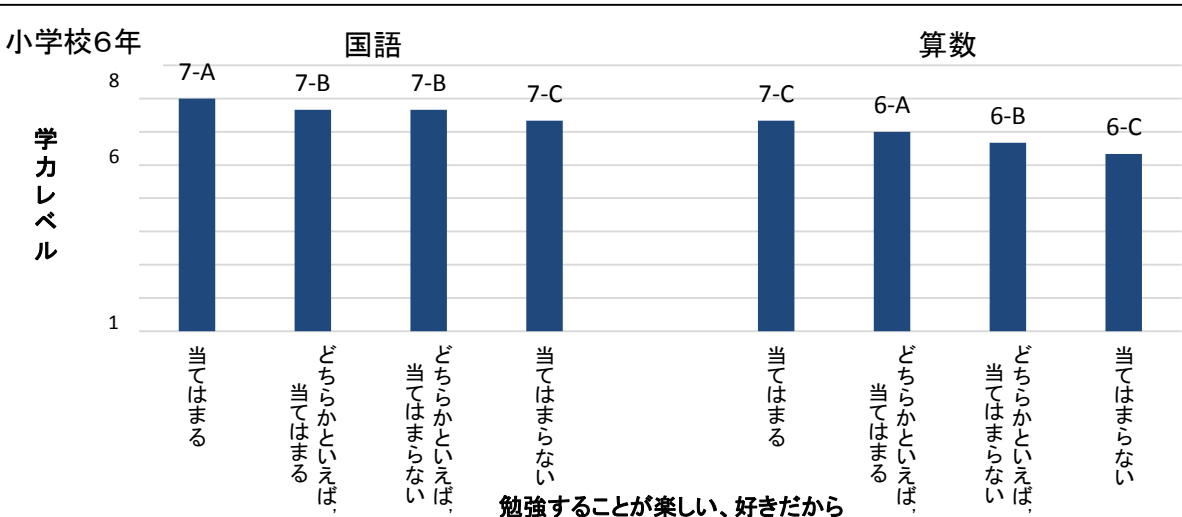
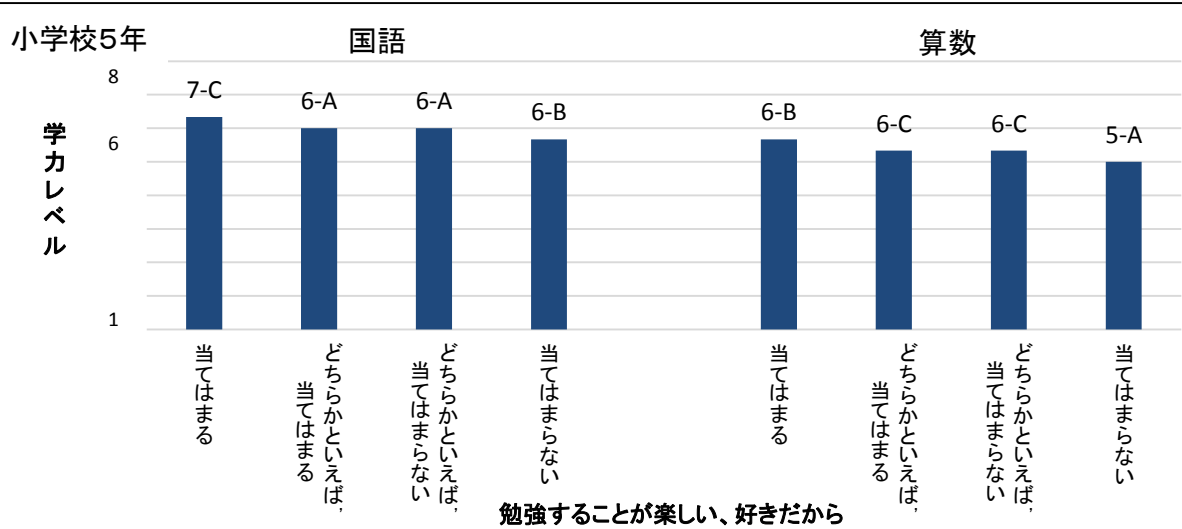
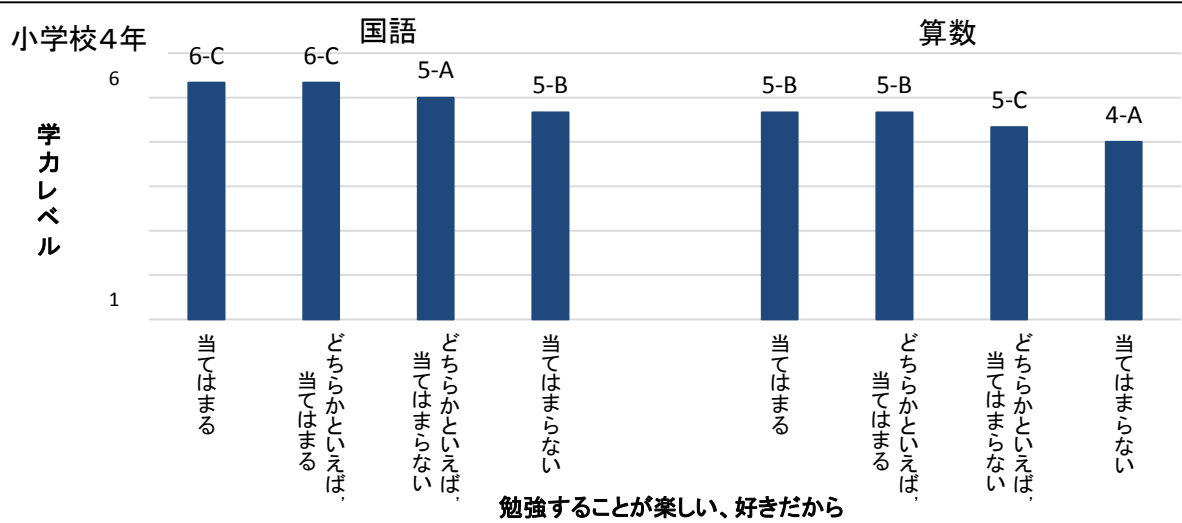


3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関

【概要】

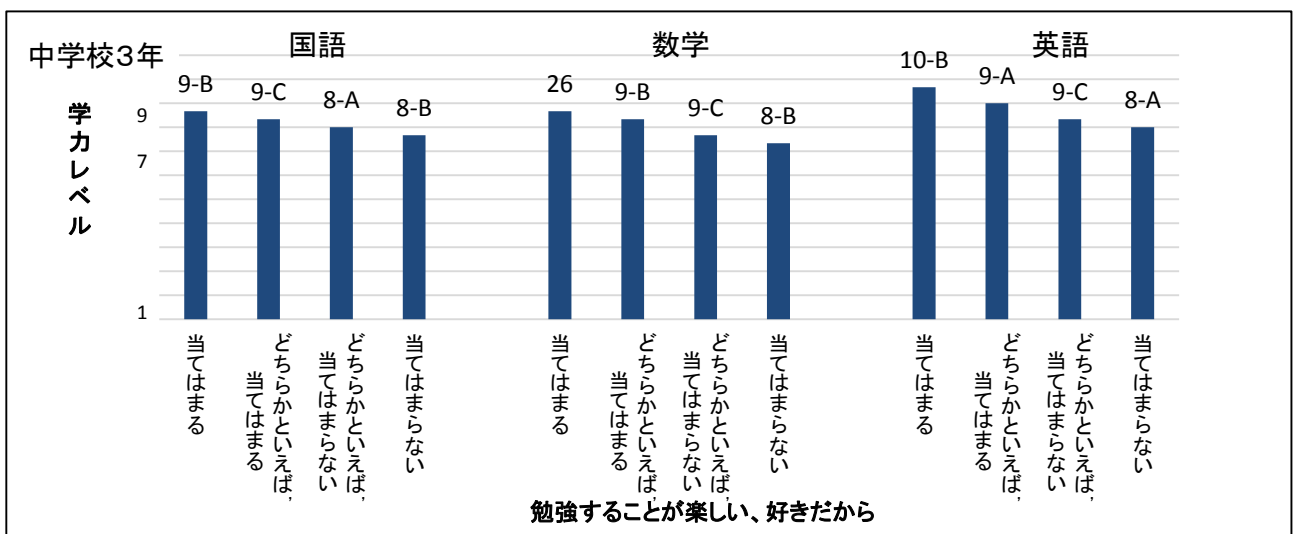
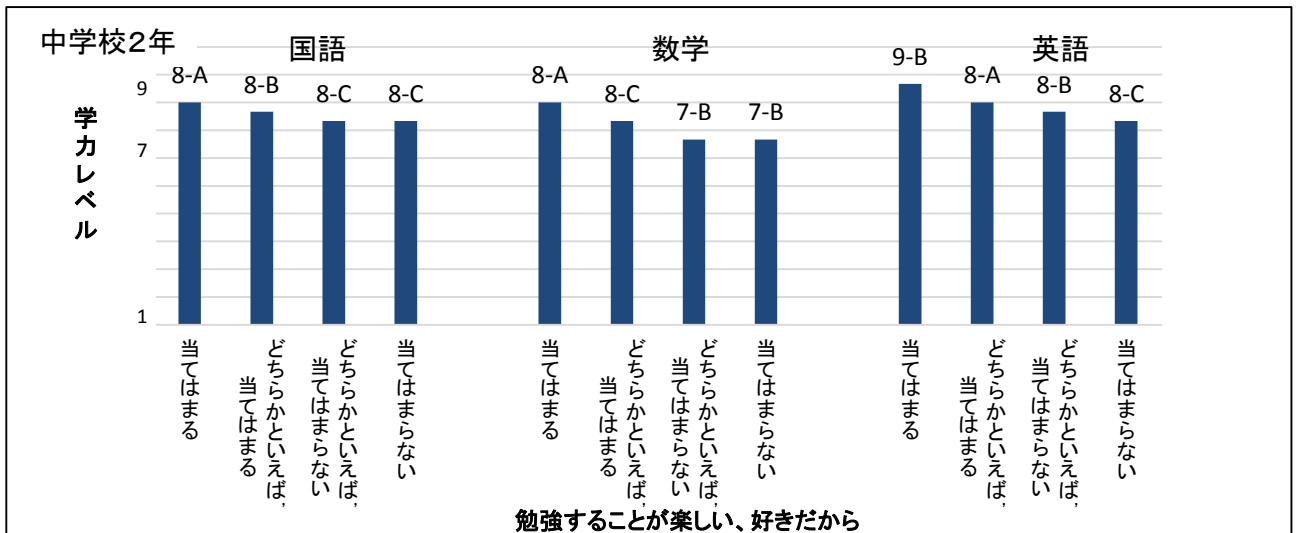
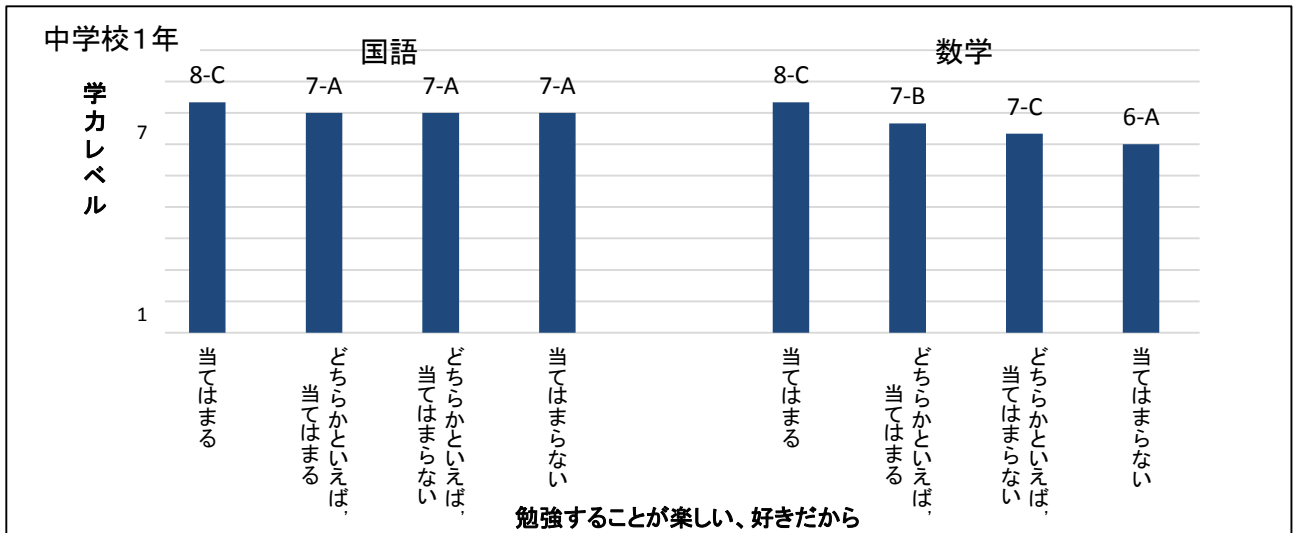
勉強する理由が「勉強することが楽しい、好きだから」と回答する児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが高い傾向がある。

学年が上がっていくと勉強が楽しいと感じることが減少していく傾向がある。



【先生方へのメッセージ】

- 「何か分かるようになった、何かができるようになった」と子供たちが実感することは、学習意欲の向上につながっていきます。
- 教師が一人一人の子供たちの学習状況を把握し、わからなかったことがわかるようになる授業、できなかったことができる実感できる授業を研究していくことで、子供たちは勉強することが楽しい、好きだという気持ちを高め、学力レベルを高めていくことができます。



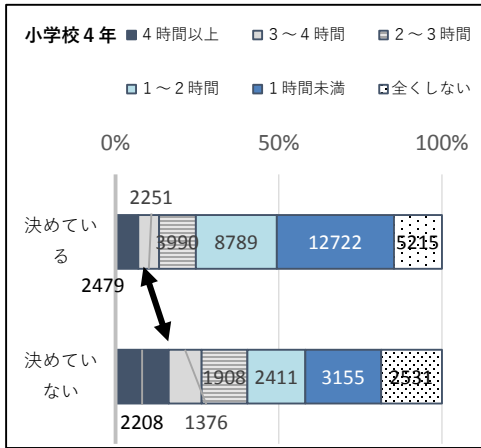
4 「家庭での生活習慣」に関する相関

【概要】

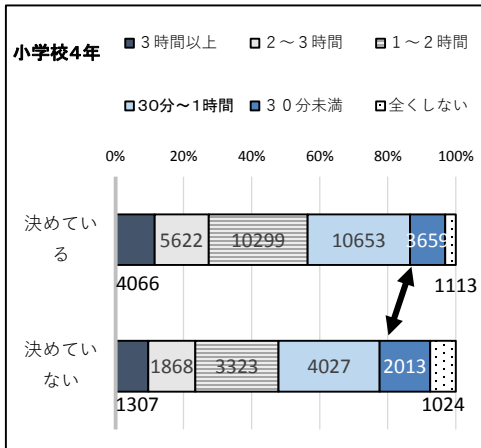
テレビゲーム等について「家の人と約束を決めている」と回答した児童生徒は、長時間テレビゲーム等を行うことが少なく、また、家庭学習の時間を確保している傾向がみられる。

なお、長時間テレビゲーム等をしている児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが低い傾向にある。

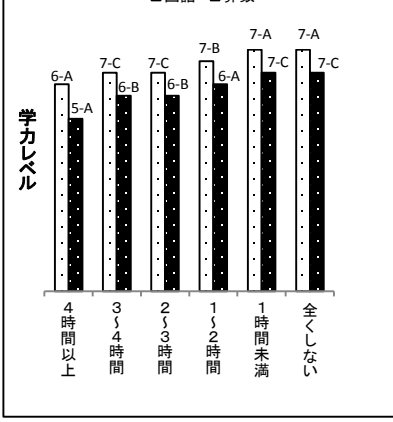
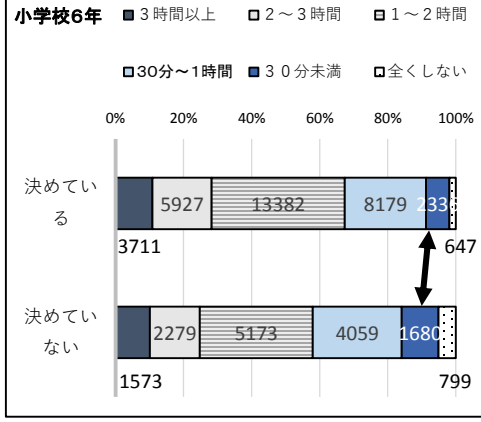
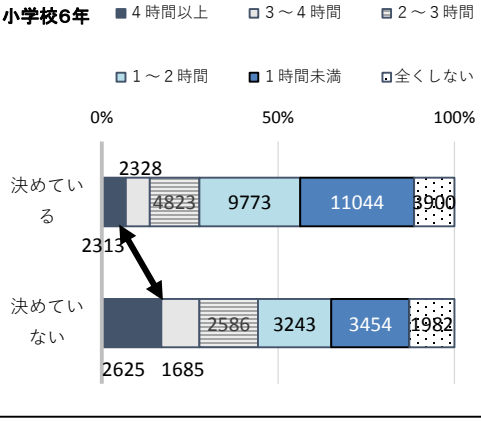
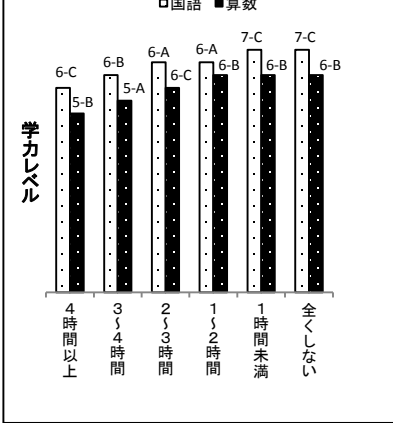
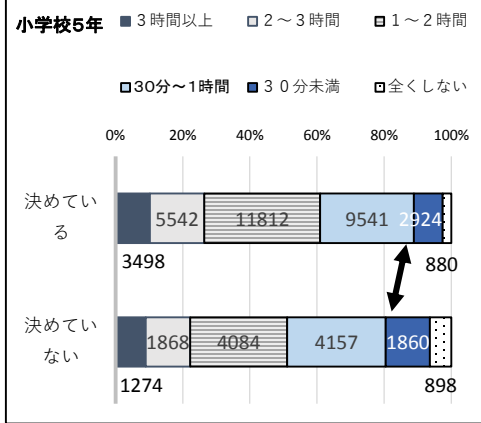
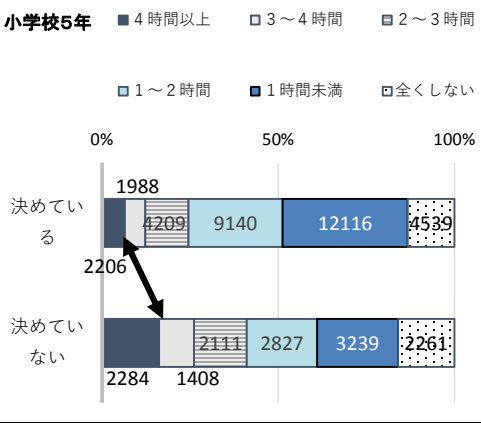
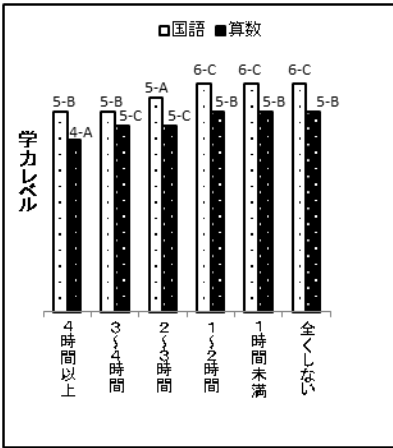
テレビゲーム等の時間(月～金)



家庭学習の時間(月～金)



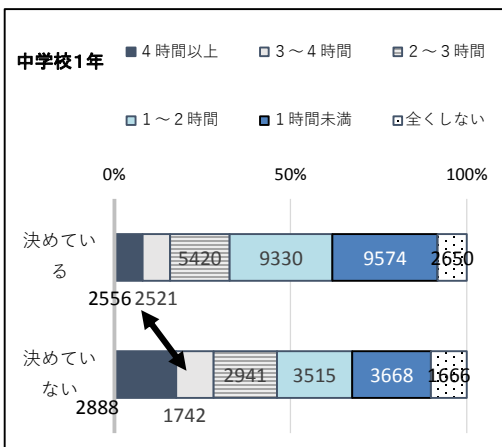
テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



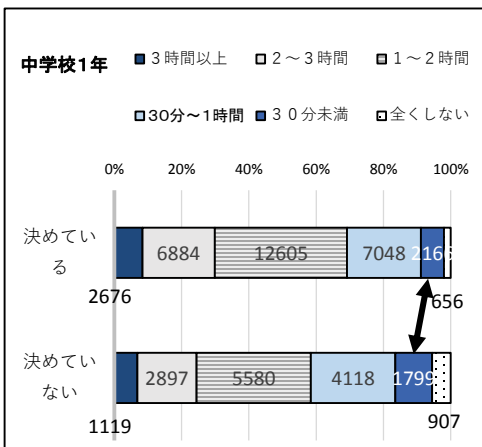
【先生方へのメッセージ】

- 子供たちが自分一人で家庭での学習習慣を上げるのは難しいことです。学校と家庭が連携し、子供たちが生活を見直すきっかけづくりをしていきましょう。
- テレビゲーム等を行う時間について約束するときは、話し合って約束を決めることが大切です。また、約束する必要性についても確認することで、子供が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことにつながります。

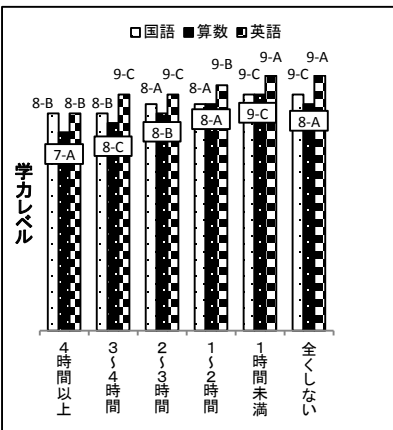
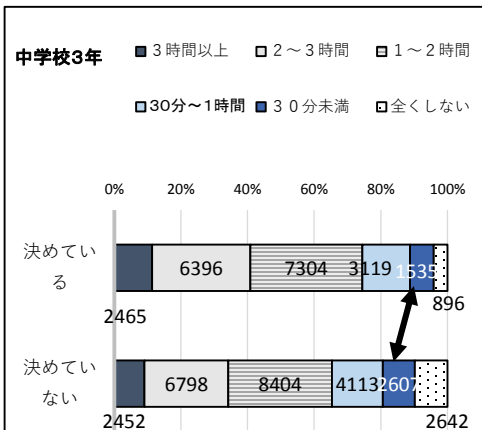
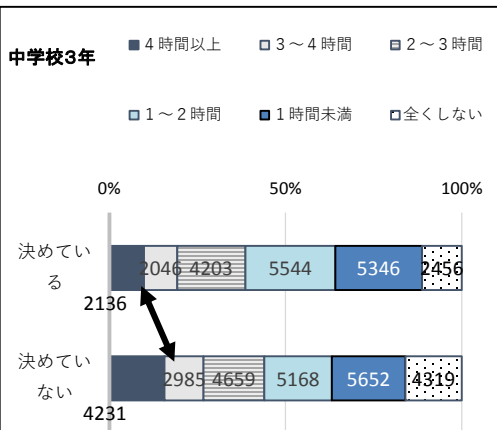
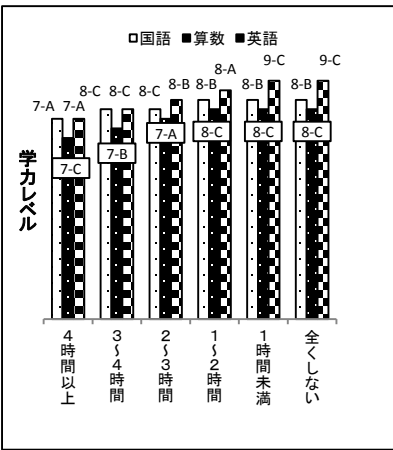
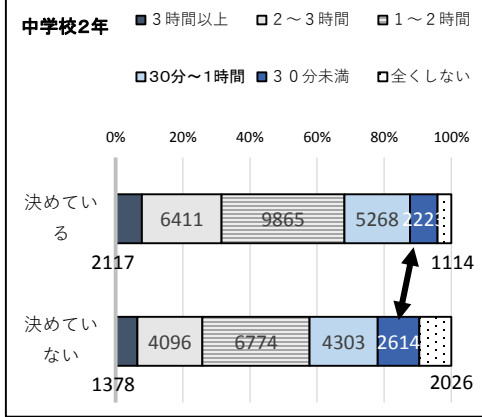
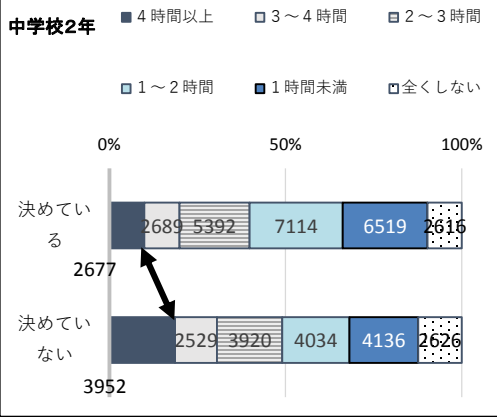
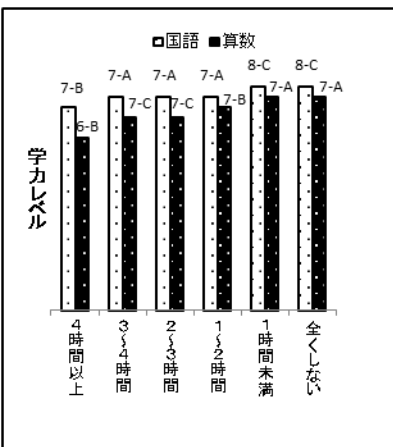
テレビゲーム等の時間(月～金)



家庭学習の時間(月～金)



テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関

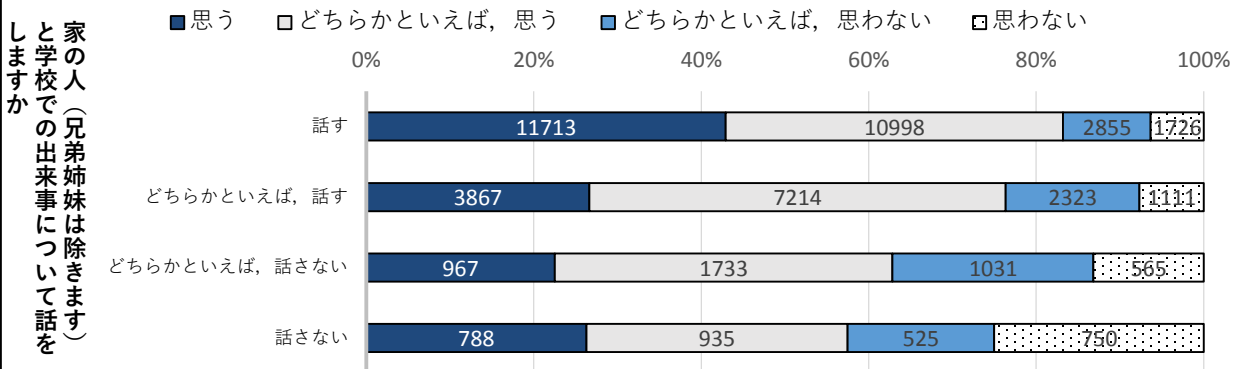
【概要】

各学年を通じて、「家の人と学校での出来事を話す」と回答する児童生徒は、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向がある。

なお、「自分にはよいところがあると思う」、「どちらかといえば、思う」と回答する児童生徒の割合は、学年が上がっていくと減少していく傾向がある。

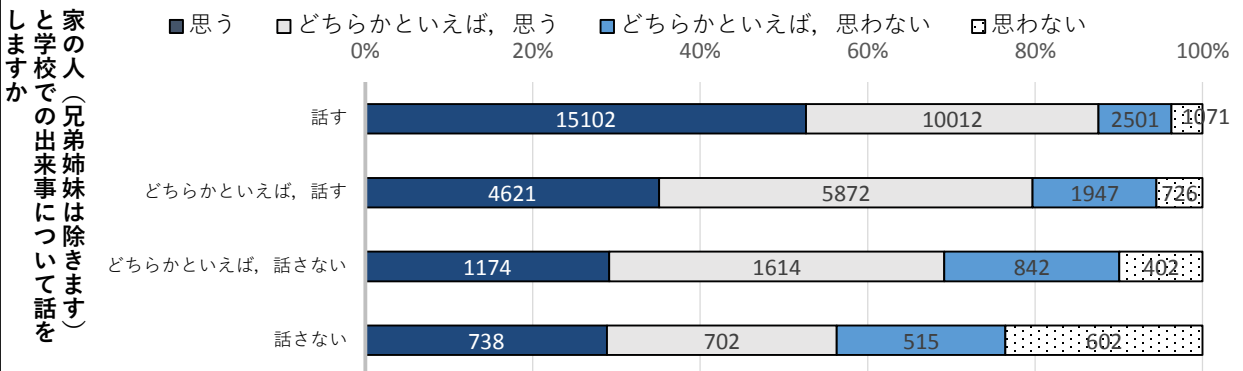
小学校4年

自分には、よいところがあると思いますか



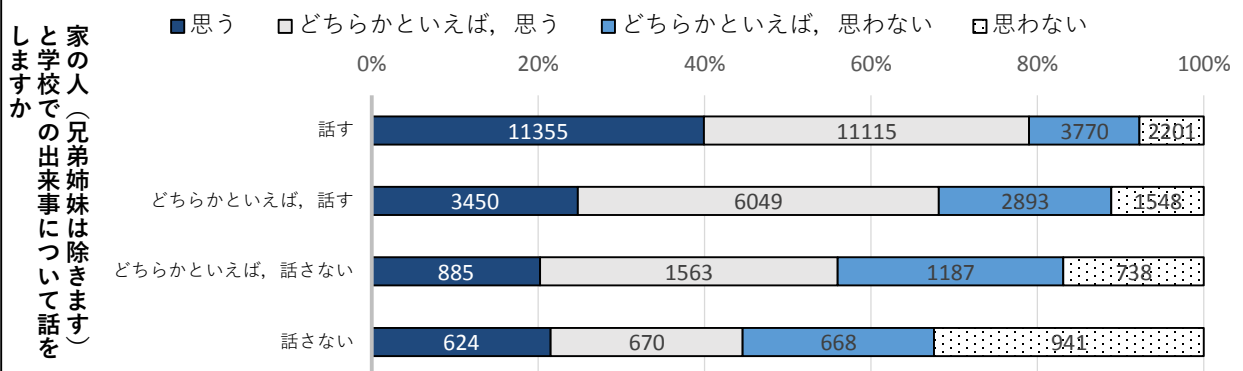
小学校5年

自分には、よいところがあると思いますか



小学校6年

自分には、よいところがあると思いますか



【先生方へのメッセージ】

- 学校での出来事を家庭で話すことで、学習や学校生活を改めて振り返ることができます。
- 学校でほめられることが増えると、家庭で親に話すことも増えてきます。そしてそのことにより、子供たちの自己肯定感も育っていきます。
- 学校でも家庭でも、子供たちが自分のよさに気付くために「いいところ探し」ができるように働きかけていくことも有効です。よさに気づき、よさを伸ばし、よさを活かすことで自ずとウィークポイントも改善されていきます。

